

# 地域医療の充実に向けて

## 看護師確保に向け情報交換



藤井 英子 議員  
(平和環境市民クラブ)

**Q** 花巻地域でも看護師が少ない状況であり、将来にわたり十分な看護師確保が必要である。花巻

高等看護専門学校の卒業生に花巻地域で働いてもらえるよう、市としても地域医療の充実のため花巻高看との情報交換をスタートさせるべきだと思

が県内医療機関に就職。市内の病院にも就職しているが、今後、卒業生がより一層市内の医療機関で活躍できるように学校と情報交換を行い、課題などをともに考えていきたい。

文化会館周辺道路は若葉町にある焼き肉店交差点からぎんどう公園までの市道(若葉町南3号線)は、道路幅が狭く一般車両や歩行者も危険である。拡幅の必要性を伺う。



看護の道への決意を新たにする戴帽式(花巻高等看護専門学校)

# 24年度地域経済の活性化事業

## 賢治のまちづくり推進事業展開



高橋 浩 議員  
(花巻クラブ)

**Q** 東日本大震災を踏まえ、躍動へ歩み出す再スタート年度と位置づけ、交流を増やして地域に活

気を生み出す各種事業を企画したとのことだが、地域経済の活性化に向けた事業について伺う。

**Q** 小舟渡矢沢線の整備 都市計画道路、小舟

渡矢沢線は、交通ネットワークの総合サービス拠点連携ルートの役割を担う路線として、道路網見直しで継続路線となったが、今後の整備方針・検討課題について伺う。

都市計画道路見直し案では、継続として整備計画を進めていく。



賢治まちづくり委員会でのワークショップの様子

# 東日本大震災の被災者支援

## 就労や公営住宅入居情報提供



増子 義久 議員

**Q** 平成23年度の実績と24年度の計画について、また、震災対策室の今後について伺う。

**A**(政策推進部長) 平成23年度は市内の全壊半壊被害に災害義援金や生活再建支援金を支給した。沿岸被災者は宿泊施設へ受け入れ、宿泊施設と被災地間無料バスを運行。市内居住被災者に災害情報送付や物資を配布した。沿岸被災企業に起業化支

援センター等を無償貸与被災地支援に延べ483人の職員を派遣した。24年度は沿岸被災者に就労や公営住宅入居情報提供、保健師の家庭訪問のほか、大槌町に職員5人を派遣。震災対策室を防災危機管理と被災者支援、放射線影響対応を合わせた統括

部署とする。 **Q** 義援金問題 災害義援金と災害寄付金に受付窓口を分けた理由と時期について、また、それぞれの内訳別金額と使途について伺う。



被災事業者への入居許可書交付式(起業化支援センター)

**A**(生活福祉部長) 義援金等受付窓口は、義援金の分配を迅速にするため受け入れ口座を2月10日から区分した。2月9日現在、義援金は1649万6千円、災害寄付金は3963万9千円である。

# 子どもの医療費助成拡大を

## 今後も県に継続し要望していく



照井 明子 議員

**Q** 乳幼児医療費助成拡大は、高校卒業まで無料化の一戸町をはじめ県内自治体に広がっている。

対象年齢を小学校卒業まで拡大する場合の市単独予算を伺う。併せて、まずは小学校卒業まで拡大を求めるかどうか。

**A**(健康こども部長) 小学校卒業まで拡充した場合、年間6460万円ほど市単独予算が必要と試算している。対象年齢拡

大を図る市町村が増加していることから本市でも調査検討しているが、現在も市独自の上乗せ補助を実施しており、多額の財源確保を要するため市単独での実施は難しい状況である。対象者拡大については、今後も継続して県に要望していく。

**Q** 住宅リフォーム助成制度の事業実績と評価を伺う。継続の要望が多くあるが所見を伺う。

**A**(建設部長) リフォーム総事業費と地域商品券合わせて19億円となっており、経済波及効果は37億円と試算している。市内経済への効果は大きいと認識している。事業の継続については、さらに経済効果を検証してから判断する。



元気に遊ぶ子どもたち